

乳用牛の飼料として地域資源等を有効に活用する 発酵 TMR は飼料コストを削減できる

酪農経営は、近年における飼料価格の高騰・高止まりなどの影響を受け、生乳生産コストの上昇が経営を圧迫しており、地域資源等を有効に活用して生産コストの低減化を図る必要があります。そこで、佐賀県畜産試験場では、搾乳牛用発酵 TMR の飼料として、ミカンジュース粕サイレージ、大麦焼酎粕、飼料イネ WCS などの地域資源を有効に活用することにより、年間の飼料購入費を効果的に削減できることを明らかにしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 原物でミカンジュース粕サイレージ 17.1%(DM10.6%)、大麦焼酎粕 20.8%(DM4.5%)、飼料イネ WCS13.7%(DM13.7%)に調製した試験区とこれらを混合しない慣行区の 2 区の TMR を設定し、ホルスタイン種搾乳牛を各区に 7 頭を供試しました。TMR を発酵調製後、馴致期間 1 週間、試験期間 2 週間で給与を行い、終了後、反転して発酵 TMR の給与試験を行いました。
2. 試験区は、慣行区に比べ採食量が有意に高く、乳量、無脂固形分および MUN が高くなりました。また、試験区の BUN が高い値を示しましたが、正常範囲内であり、健康状態に問題は有りませんでした。
3. 現物当たりの飼料購入費は、試験区が 18.3 円/kg、慣行区が 23.6 円/kg で、それぞれの現物採食量から 1 年間の飼料購入費を比較した場合、慣行区が 304,779 円/頭、試験区が 259,841 円/頭となり、試験区が 44,938 円/頭のコスト削減となりました。



図1 ミカンジュース粕サイレージ



図2 大麦焼酎粕



図3 地域資源を活用した発酵 TMR の調製

☆ 活用面での留意点

1. 現行の給与から飼料を切り替える際は、馴致期間を取り牛の採食量を確認しながら変更してください。
2. 大麦焼酎粕は水分が高く変敗の進行が速いので、引取後 1 日以内に TMR 調製を行ってください。
3. 詳しくは、佐賀県畜産試験場大家畜研究担当山下大司 (Tel.0954-45-2030) にお問い合わせください。